

またもや発車待ち

一昨日 8 月 6 日は津島にいました。父を見舞った後、庭の草取りに精を出していると、昼過ぎから空がゴロゴロ鳴り出しました。

前回(『[運行停止状態の電車内では](#)』)のように、大雨の中電車内に閉じ込められるのはイヤなので、早めに行動を起こします。雨は降っていません。ゴロゴロと小さく鳴り続けています。

名古屋までは順調にたどり着きました。回数券を買っているので近鉄へ向かいます。

酒、つまみ、弁当を手際よく買って、17 時 30 分発の難波行き特急に乗車しました。いい気分です。

「大阪線内で大雨が降っている模様です。」車内には、そんなアナウンスが流れました。

『へえ～、ここは降ってないのに。』

次の停車駅の津に着くなり、「青山町付近で雨量規制を超える大雨が降っています。この列車はここで運転を中止しますので、降りてください。」といきなりのアナウンス。

『またか。』

伊勢中川駅までは程なく行けました。

しかし、ここで 3 時間ほど待つこととなります。

前回ほどのドキドキ感はありません。それは、車内という閉ざされた空間ではないからだと思います。

ホームには大勢の人が電車の運行再開を待ちわびています。自らの意思でここにいるわけではないことを除けば、吹き抜けていく風が心地良さを感じさせてくれます。

ここでも、雨は降っていません。



やっと動いた臨時列車は、名張行き急行でした。その先のことは、名張に行ってみないとわからない状況です。名張に着くと間もなく、上本町行き特急が隣のホームに入ってきました。皆が迷わず乗り込みます。しかし、車内はラッシュのように、すでに通路まで人でいっぱいでした。

大阪上本町に着き、地下鉄に乗り換えてから、「3つのなぜ？」を考えていました。

① なぜ、同じアナウンスを繰り返すのか？

伊勢中川駅では、大阪方面行の列車を待っている乗客に対して、同じアナウンスを繰り返していました。

「青山町付近で降り続く大雨のため、大阪方面の列車の運行を中止しております。お急ぎのお客さまには、たいへんご迷惑をおかけします。今しばらく、お待ち願います。」

待つ身としては、どの程度の大雨なのか、今後の気象予報はどうか、復旧の見通しはどうか、が知りたいのに。

② なぜ、臨時特急は4両編成なのか？

名古屋駅で乗った特急は、空席があったものの8両編成です。また、この特急の乗客以外にも大阪方面に行きたい人が、ここにたくさん集まっています。

4両では、人が溢れてしまいます。

大阪上本町駅の一つ手前の鶴橋駅で、立っている人はいなくなりました。

③ なぜ、特急料金払い戻しをアナウンスしないのか？

車内でも、大阪上本町のホームでも「特急料金を払い戻します。」という係員の声は、ありませんでした。気の利く人だけが、特急券売り場の窓口に向いました。わずかな人数です。

心情的には、一刻も早く帰りたいと誰もが思っています。

大雨による運行中止でしたが、結局、私は雨を一度も目にしていません。近頃のゲリラ豪雨の恐ろしさですね。

帰宅したのは、日付が変わる直前になりました。

長い一日が終わりました。